

〔島根女子短期大学紀要 Vol. 34, 65～72 (1996)〕

自己評価による性格と被服行動との関連性

—— 学生と一般女性を比較 ——

藤 井 一 枝

(被服構成学第一研究室)

On the Relation between Self-rated
Personal Character and Clothing Behavior
— A Comparison of Women's College Students
and General Women —

Kazue FUJII

キーワード: Clothing Behavior 被服行動, Personal Character 性格,
Attitude toward Wearing 着装態度,
Purchasing Behavior 購買行動

1. 緒 論

現代は情報社会と呼ばれ、地方にあって内外のファッション情報だけでなく、ブランド商品までもすぐ手に入れることができる。従って、どんな服を選んで、着たらよいかという行為は、どのような自分であり、また自分をどのように顕示し、表現したかという観点から行われていると考える。そのため、各人の被服行動はその人の価値観や自己概念などの個人的な要因に大きく影響される。そこで、その人の価値観や自己概念に最も影響を及ぼすと思われる性格を取り上げ、被服行動との関連性について検討した。個人の性格は YG 性格検査などによって客観的に判定されるのが望ましいが、生活環境の異なる多くの一般女性を調査対象者に選ぶとき、被服行動調査と別に YG 性格検査も合わせて実施することは困難である。そこで、被服行動調査に自己評価

による性格調査項目を加えて調査を行い、性格と被服行動、なかでも性格と着装態度および購買行動との関連性について調べ、若干の知見を得たので報告する。

2. 方 法

調査対象者は既報²⁾と同じ本学女子短大生304名と学生を除く松江市内の19～59歳までの一般女性516名³⁾の2群である。調査時期は1990年6月～7月に配票留置法によりアンケート調査を行った。被服行動に関する調査項目は着装態度に関する12項目と購買行動に関する9項目の合わせて21項目である。また、自己の性格判断に用いた設問は第1表に示す13項目で、それぞれ3段階で判断してもらった。性格に関する調査は女子短大生と一般女性のそれぞれについてタイプ分けを行うために、13の性格項目の単純集

第1表 自己の性格判断に用いた設問

あなたの性格について当てはまる番号に○をつけてください。			
1. 積極的であると思いますか	(1. はい	2. どちらでもない	3. いいえ)
2. 神経質であると思いますか	(1. はい	2. どちらでもない	3. いいえ)
3. 独立心があると思いますか	(1. はい	2. どちらでもない	3. いいえ)
4. 献身的であると思いますか	(1. はい	2. どちらでもない	3. いいえ)
5. 楽天的であると思いますか	(1. はい	2. どちらでもない	3. いいえ)
6. 度胸があると思いますか	(1. はい	2. どちらでもない	3. いいえ)
7. 従順であると思いますか	(1. はい	2. どちらでもない	3. いいえ)
8. 意地っぱりであると思いますか	(1. はい	2. どちらでもない	3. いいえ)
9. 協調性があると思いますか	(1. はい	2. どちらでもない	3. いいえ)
10. 明朗であると思いますか	(1. はい	2. どちらでもない	3. いいえ)
11. 気前がいいと思いますか	(1. はい	2. どちらでもない	3. いいえ)
12. 気がつく方ですか	(1. はい	2. どちらでもない	3. いいえ)
13. やさしいですか	(1. はい	2. どちらでもない	3. いいえ)

計結果を用いて数量化Ⅲ類を行い、さらにクラスター分析により5タイプの性格に分類した。次に被服行動に関する調査結果は単純集計を行うと共に、タイプ分類した性格とのクロス集計を行い、 X^2 検定により有意性を判定した。

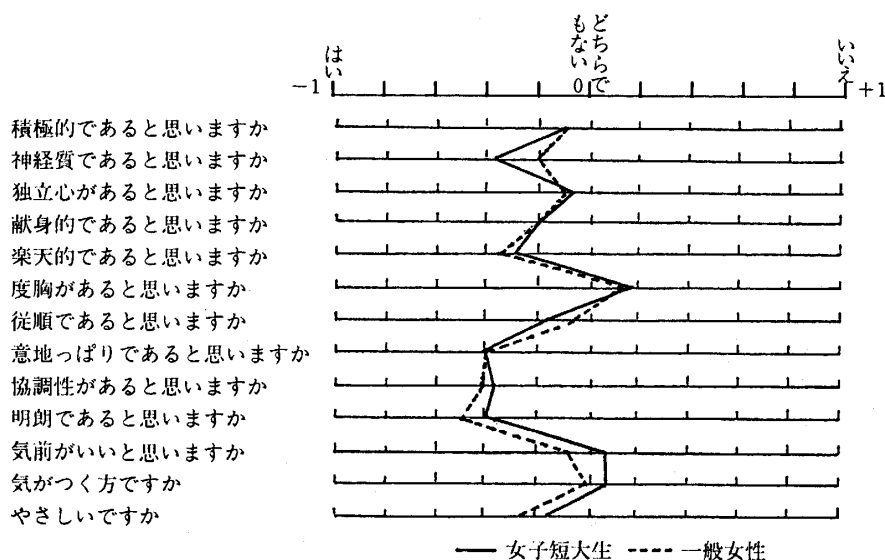
3. 結果及び考察

1) 性格タイプの分類

自己評価による性格調査より女子短大生と一般女性について単純集計を行った。その平均値の結果は第1図に示すとおりである。一般女性に比べて女子短大生の方がやや神経質の程度が強いが従順である。一般女性は女子短大生に比べてやや明朗で気前が良

く、やさしい性格である。しかし、全体にはほぼ同じプロフィールを示すことがわかった。すなわち、やや明朗で、協調性はあるが、意地っぱりであることが示されている。次に女子短大生と一般女性のそれぞれについて性格をタイプ分類するために、各個人が自己評価した性格に関する質問項目への反応パターンを用いて数量化Ⅲ類を行った。抽出された基本軸はいずれも5軸であるが、累積寄与率の高い3軸を用いて、各個人の得点をもとにクラスター分析を行った。結果は第2表に示すとおり、女子短大生と一般女性はほぼ類似した特性を持つ5タイプの性格に分類できた。各タイプの名称は9つの自己評価による性格項目の中で顕著な項目名と比率より推察

したものである。始めに示すタイプは、自分は意地っぱりであると肯定する人が一般女性で87.4%、女子短大生で68.6%と比率に違いはあるもののいずれも最大比率を示し、他に特性を示すような著しい性格項目が両者に出現しないことから、これを主観型と名付けた。次に示すタイプは顕著な性格項目が女子短大生と一般女性でやや異なるが、両者に共通の項目に気が小さい、消極的があげられていることから、これを消極・不安定型とした。この性格の人は女子短大生が26.2%に対して一般女



第1図 女性の性格プロフィール (平均値)

第2表 性格タイプの分類

対象者 \ タイプ	主 観 型	消 極・不安定型	明朗・社会適応型	お人好し型	平 凡 型
女子短大生 (304名)	意地っぱり 68.6%	気が小さい 67.5% 神経質 64.9% 消極的 55.8%	明朗 100.0% 楽天的 94.9% 協調性がある 76.9%	やさしい 85.7% 献身的 74.3% 神経質 71.4%	明朗 69.9% 協調性がある 61.6%
比 率 (%)	23.8	26.2	13.3	11.9	24.8
一 般 女 性 (516名)	意地っぱり 87.4%	気が小さい 85.7% 独立心がない 69.6% 消極的 55.4%	明朗 89.5% 楽天的 71.1% 協調性がある 72.4%	献身的 80.4% やさしい 76.1% 協調性がある 76.1	
比 率 (%)	20.0	11.8	16.0	9.7	42.5

性は11.8%とかなり少ないことがわかった。これは社会的経験の豊富な一般女性は消極的になっていられない事柄が、日常多く生じているためと思われる。次に示すタイプは顕著な性格項目に明朗、楽天的、協調性があげられ、肯定する比率も両者共高いことから、これを明朗・社会適応型とした。次に示すタイプは女子短大生に神経質、一般女性に協調性と異

なった項目も見られるが、両者に共通のやさしい、献身的を肯定する人の比率が高いことから、これをお人好し型とした。最後に示すタイプは女子短大生に明朗、協調性があるの比率がやや高いものの、一般女性には顕著な性格項目が全くあげられないことから、これを特徴のない性格と判断して平凡型と名付けた。なお、このタイプは一般女性が42.5%に対

して、女子短大生は24.8%と少ないことがわかった。これは一般女性が社会的経験を経るにしたがって、次第に若い頃の特徴のある性格が平凡型へと変化したものと推察される。

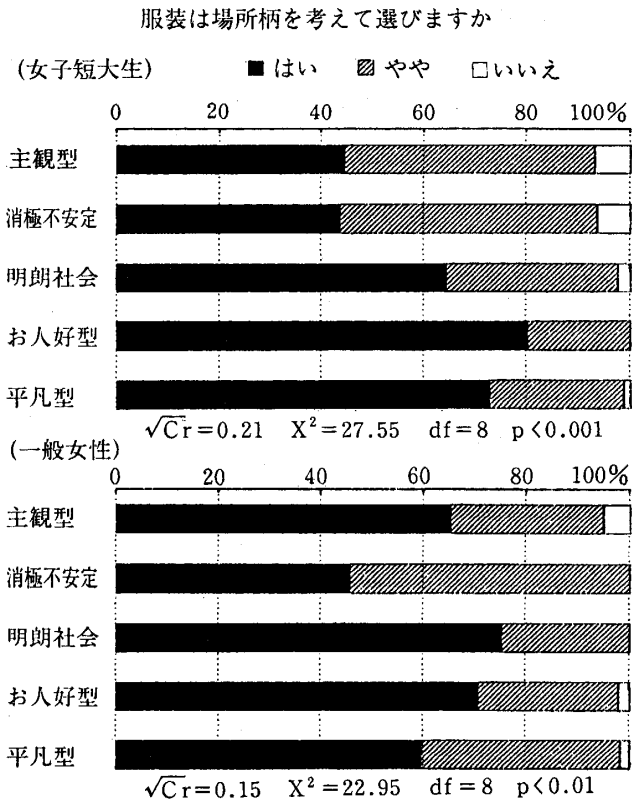
2) 着 装 態 度 と 性 格 と の 関 係

第3表は着 装 態 度 項 目 12 項 目 の 結 果 と 性 格 分 類 し た 5 タイプをクロス集計し、有意差検定を行った結果である。女子短大生と一般女性の両者に有意差が認められた項目は5項目である。さらに女子短大生には「少々高価でも有名ブランドの服が着た

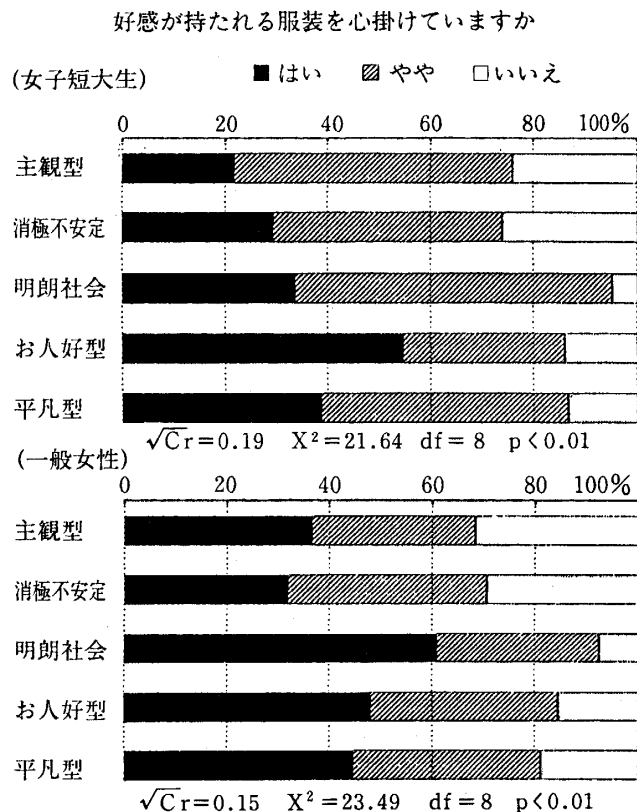
第3表 性格タイプと着 装 態 度 項 目 と の 検 定 結 果

着 装 態 度 項 目	女子短大生	一般女性
服装は場所柄を考えて選びますか	***	**
周囲の人たちと出来るだけ同じような服装をしますか		**
仲間からはめられ、好感が持たれるような服装を心がけますか	**	**
男は男らしく、女は女らしい服装をするのが良いと思いますか	*	***
流行遅れの服装をするのが嫌いですか		*
少々高くても有名ブランドの服が着たいですか	**	
服の組合せでイメージチェンジや変身を楽しむのが好きですか		
服装によって自分の体型をカバーして格好良く見せたいですか		
新しい流行の服を人より先に着てみたいですか	***	**
おしゃれには常に気を配っていますか	***	***
異性に魅力的にみられるような服装がしたいですか	*	
家にいるときでも服装に気を付けていますか		*

* p < 0.05%, ** p < 0.01%, *** p < 0.001%



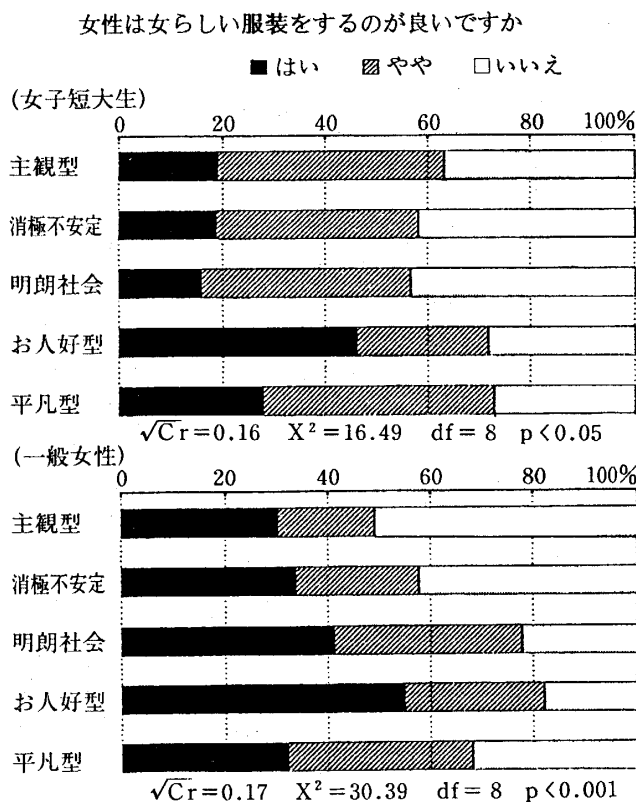
第2図 性格タイプ別着装態度 (その1)



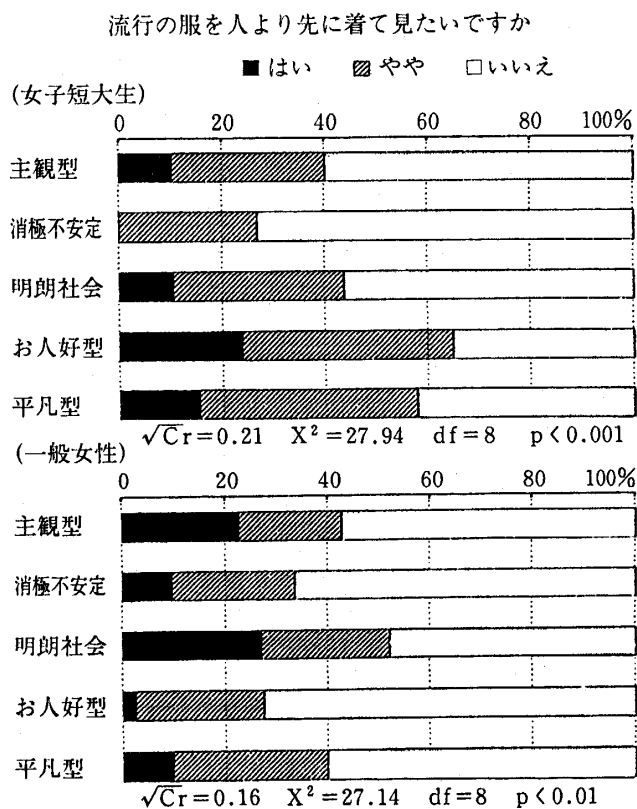
第3図 性格タイプ別着装態度 (その2)

いか」と、「異性に魅力的に見られる服装がしたいか」の2項目、一般女性には「周囲の人たちと出来るだけ同じような服装をしますか」、「流行遅れの服装をするのが嫌いですか」、「家にいるときでも服装に気をつけていますか」の3項目に有意差が認められ、女子短大生と一般女性で異なっている。これは着装態度に対する基準の重み付けが女子短大生と一般女性とは異なるためと考えられる。すなわち、4つの基準のうち、女子短大生は「個性」「流行性」を重要視するのに対して、一般女性は「社会性」と「効用・実用性」を重要視しているためと思われる。また、「服の組合せでイメージチェンジや変身を楽しむのが好きですか」と「服装によって自分の体型をカバーして格好よく見せたいですか」の2項目はいずれも性格との間に有意差が認められず、体型をカバーして格好よく見せたいと肯定する人は女子短大生が70.9%、一般女性は73.1%と非常に多く、服の組合せでイメージチェンジや変身を楽しむのが好きと肯定する人も両者に約半数を占めることから、この2項目は性格と関わりなく、誰もが期待している被服行動であることが明らかになった。

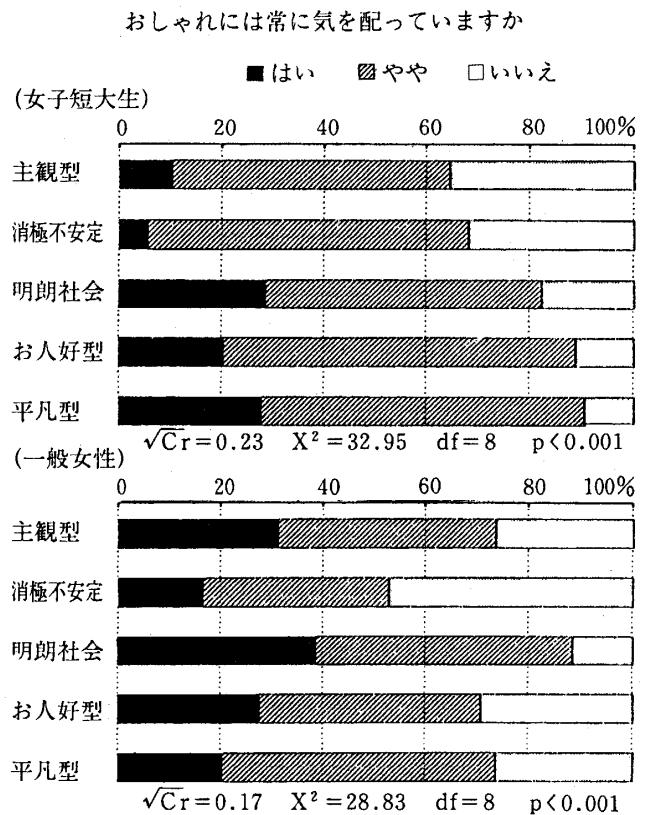
次に両者に有意差の認められた5項目についてそれぞれ性格タイプ別にその特徴を見ると、第2～6図に示すとおりである。第2図より、「服装は場所柄を考えて選びますか」では、女子短大生はお人好し型に肯定する人が最も多いのに対して一般女性は明朗・社会適応型に最も多い。また、両者とも消極・不安定型に肯定する人が最も少なくなっている。この着装態度項目のようにTPOといわれる基本的な着装態度にも性格が影響していることが伺われる。第3図より、「好感が持たれる服装を心掛けていますか」では、女子短大生はお人好し型、一般女性は明朗・社会適応型に肯定する人が最も多く見られ、肯定する人が少ないのは、両者とも主観型と消極・不安定型である。しかし、主観型は消極・不安定型とは異なって、自分の意志で他の人との調和を考えた着装態度を否定したものと思われる。第4図より、「女性は女らしい服装をするのが良いですか」では、肯定する人が学生と一般女性のいずれにもお人好し型に多いのは、お人好し型の特徴であるやさしい、献身的な人柄がこの着装態度に影響したものと思われる。なお、否定する人は一般女性が主観型に対して女子短大生は明朗・社会適応型に最も多くなっている。第5図より、「流行の服を人より先に着て見



第4図 性格タイプ別着装態度 (その3)



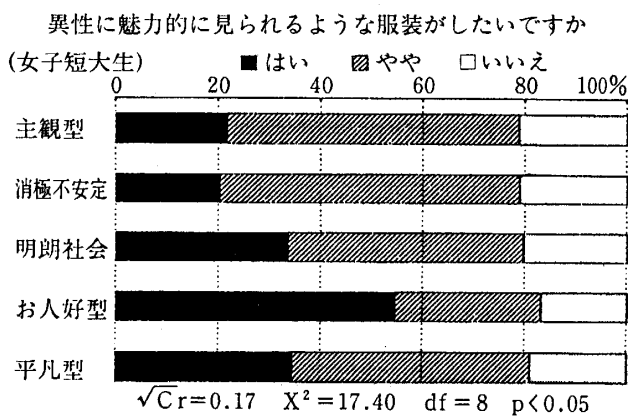
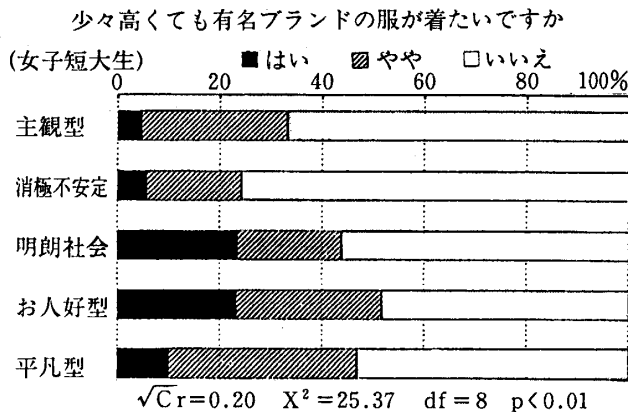
第5図 性格タイプ別着装態度 (その4)



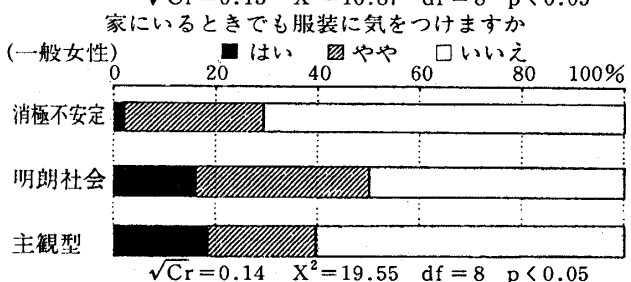
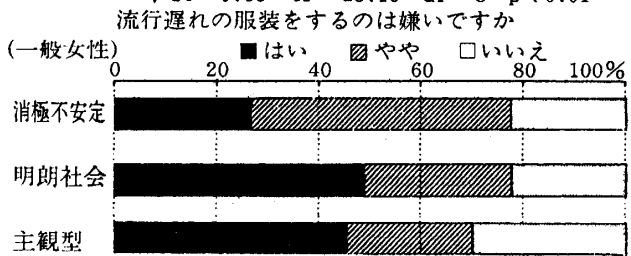
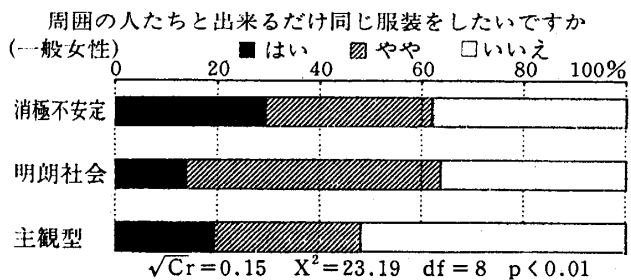
第6図 性格タイプ別着装態度 (その5)

たいですか」では、女子短大生と一般女性のいずれの性格タイプも肯定する人は少ないが、比較的多く見られるのは女子短大生がお人好型に対して一般女性は明朗・社会適応型である。否定する人は女子短大生が消極・不安定型に対して一般女性はお人好型と両者は異なっている。これは女子短大生が着装態度の基準に「流行性」を重み付けしているのに対して一般女性は「社会性」に重み付けしていることが要因と思われる。第6図より、「おしゃれには常に気を配っていますか」では、肯定する人は両者共明朗・社会適応型に多く、消極・不安定型が最も少なくなっている。これより、女性にとっておしゃれに対する気の配り方は女子短大生、一般女性に関わらず、個人の意志すなわち性格にも影響されることがわかった。

次に、女子短大生にのみ有意となった2項目の結果を第7図に示す。「少々高くても有名ブランドの服が着たいですか」を肯定する人はいずれの性格も比率は低いものの、明朗・社会適応型とお人好型に比較的多くみられ、主観型と消極・不安定型は少なくなっている。「異性に魅力的に見られるような服



第7図 性格タイプ別着装態度 (その6)



第8図 性格タイプ別着装態度 (その7)

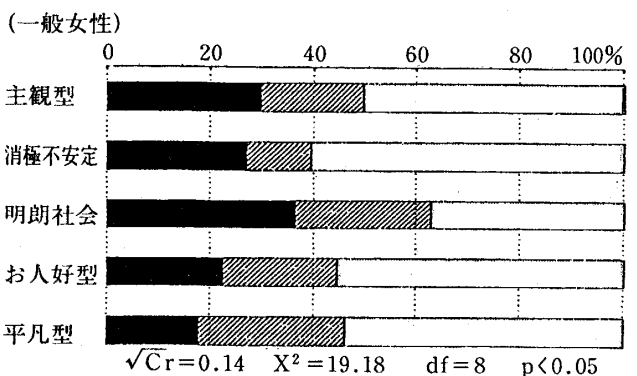
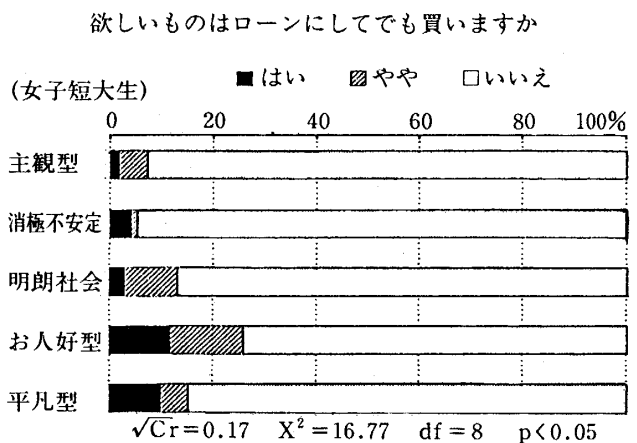
第4表 性格タイプと購買行動項目との検定結果

購 買 行 動 項 目	女子短大生	一般女性
流行中の物を買いますか	**	**
高価でも品質や仕立ての良いものを買いますか		
出来るだけ安いものを買ひ、品数を多く揃えますか		
バーゲンセールをよく利用しますか		*
見た感じや美しさを特に重視して買いますか		
衝動買いをすることがあります		
欲しいものはローンにしていでも買いますか		
多少高価でも有名ブランドの物を買いますか	**	
通信販売を利用したことがありますか		

* $p<0.05\%$, ** $p<0.01\%$

装がしたいですか」を肯定する人はお人好し型が過半数を占めて多いのに対して消極・不安定型と主観型が少なくなっている。このことから、ブランドと異性に対する反応は女子短大生の着装態度に影響される要因として性格と関わる事が認められた。

第8図は一般女性に有意となった3項目の結果を示す。但し、お人好し型と平凡型はいずれの項目にも特徴が認められなかったので図は省略している。「周囲の人たちと出来るだけ同じ服装をしたいですか」を肯定する人は消極・不安定型の人に最も多く、

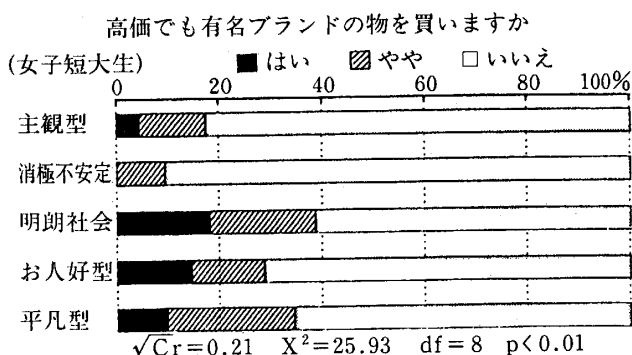


第9図 性格タイプ別購買行動 (その1)

明朗・社会適応型が少ない。これに対して、「流行遅れの服装をするのは嫌いですか」を肯定する人と「家にいるときでも服装に気をつけますか」を肯定する人は比率に違いがあるものの、明朗・社会適応型と主観型に多く、消極・不安定型がいずれも少なくなっている。このことから、消極・不安定型の人は周囲の人を意識して同調行動はするものの、流行や身だしなみには消極的であるものと思われる。

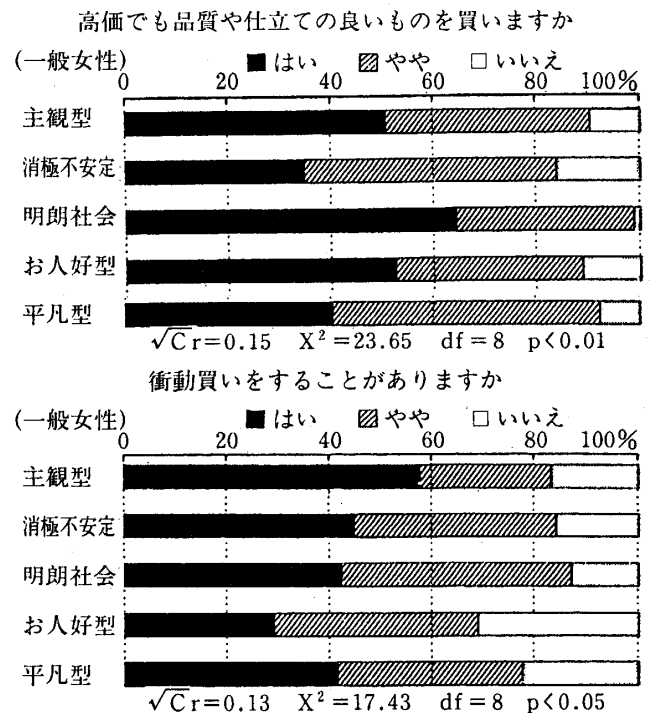
3) 購買行動と性格との関わりについて

第4表は2)と同様にして購買行動項目9項目を性格タイプ別にクロス集計し、有意差検定を行った結果である。有意差の認められた項目は9項目中4項目と着衣態度項目に比べて少ない。女子短大生と一般女性の両者に有意差の認められた項目は「欲しいものはローンにしても買いますか」の1項目、女子短大生にのみ有意となった項目は「多少高価でも有名ブランドのものを買いますか」の1項目、一般女性にのみ有意となった項目は「高価でも品質や仕立ての良いものを買いますか」と「衝動買いをすることがありますか」の2項目である。このことから、購買行動の選択基準は女子短大生がブランドを嗜好するのに対して一般女性は品質や仕立ての良さのように実用性を重視し、両者は異なることがうかがわれる。



第10図 性格タイプ別購買行動 (その2)

次に第9～11図は性格タイプ別に購買行動の特徴を示したものである。第9図より、「欲しいものはローンにしても買いますか」では買うと肯定する人は、一般女性に比べて女子短大生はいずれの性格においても少ない。これは、学生は一般女性と違って経済的に親の保護のもとにあり、経済的に自立していないことが要因と考えられる。従って、女子短大生の比率と一般女性の比率は大きく異なるが、女



第11図 性格タイプ別購買行動 (その3)

子短大生はお人好型、一般女性は明朗・社会適応型に肯定する人が最も多く、否定する人は両者共、消極不安定型に最も多くみられる。第10図より、女子短大生においてのみ有意差の認められた「高価でも有名ブランドのものを買いますか」では、肯定する人は明朗・社会適応型に多く、消極・不安定型には全く見られない。第11図より、一般女性にのみ有意差が認められた「高価でも品質や仕立ての良いものを買いますか」においても第10図と同じ傾向を示し、肯定する人は明朗・社会適応型に多く、消極・不安定型が最も少なくなっている。このことは先に述べたように購買行動の重み付けは女子短大生と一般女性で異なるものの、性格との関わり方が同じ場合もあることを示している。また、「衝動買いをすることがありますか」では、肯定する人は主観型に最も多く、お人好型が最も少ない。このように他の購買行動項目とは異なった性格との関わり方をするものもみられ、購買行動が消費者の複雑な心理的、社会的、文化的要因に大きく影響を受けていることがわかった。

4. 総 括

自己評価による性格と被服行動との関連性について学生と一般女性を対象に調査を行った結果、以下

に示す事柄が明らかになった。

- 1) 自己評価による性格は学生と一般女性のいずれもほぼ同じ特性を持つ、主観型、消極・不安定型、明朗・社会適応型、お人好し型、平凡型の5タイプに分類された。
- 2) 場所柄を考えて服装を選んだり、好感が持たれる服装を心掛ける人は、学生ではお人好し型に、一般女性では明朗・社会適応型に多い。これは、一般女性が女子短大生とは異なり、「社会性」に着装態度の基準を重み付けしているためと考えられる。
- 3) 女らしい服装をするのが良いとする人が学生と一般女性のいずれにもお人好型に多いのは、お人好し型の特徴であるやさしい、献身的な人柄がこの着装態度に影響したものと思われる。
- 4) 女子短大生と一般女性に関わらず、おしゃれに対して気を配る人は明朗・社会適応型に多いことがわかった。
- 5) 女子短大生はブランドの服や異性を意識した服装を重要視するのに対して、一般女性は周囲の人との同調行動や身だしなみに重点を置いた着装態度が見られ、性格との間に有意な差が認められた。
- 6) 購買行動項目と性格との間に有意差の認めら

れた項目は9項目中4項目と少なく、しかも女子短大生と一般女性で購買行動項目の重み付けが異なることから、性格との関わり方が異なることが明らかになった。これより、購買行動が消費者の複雑な心理的、社会的、文化的要因に大きく影響を受けていることが推察される。

性格は非常に複雑で多面的であり、客観的にしかも体系的に類型化されたものではない。従って、本研究はあくまでも性格の一面をとらえて被服行動との関連について検討したものである。

なお、本研究の一部は第40回日本家政学会中国・四国支部研究発表会大会において発表した。

参 考 文 献

- 1) 辻岡美延他：「Y-G性格検査法（一般用）」、竹井機器工業株式会社、(1967)
- 2) 藤井一枝：島根女子短大紀要、31、9-16 (1993)
- 3) 藤井一枝：島根女子短大紀要、32、81-90 (1994)
- 4) 奥野忠一、久米均他：多変量解析法、日科技連、東京、P.391 (1980)
- 5) 中川早苗：家政誌、37、No.5 (1986)
- 6) 高木修：関西大学社会学部紀要、17、No.1 (1985)

(平成7年10月25日受理)